

ボブベックのやさしい投資信託

第35回 株式型投資信託のリスク
その11

第26回、27回の「ボブベックのやさしい投資信託」で、アクティブファンドとシステムファンドの違いについて説明しました。今回は、特にアクティブファンドに注目して、どんなタイプの運用手法があるのか解説しましょう。

(7-F)アクティブ型ファンド

グロースとバリュース

アクティブ型ファンドは、どういった銘柄に投資するのかといった観点から、グロース株ファンドとバリュース株型ファンドに分けられます。ファンド名が「グロースファンド」となっているファンドをしばしば見かけるとは思いますが、このほとんどはグロース型ファンドに分類されます。

名前の通り、グロース株ファンドはグロース株に投資するファンドです。基準価額がグロース（成長）するのではなく、グロース（成長）する企業に投資するという意味なのでお間違いのないように。また、バリュース株ファンドはバリュース（価値）株、つまり実際の価値に対して割安な企業の株式に投資するファンドと言う意味です。では、成長企業とはどんな企業を指すのでしょうか、また、割安な企業と言うのはどんな企業のことを言うのでしょうか。この問いに対する、決まった解答はありません。

米国では、企業の純資産に対して、ある一定倍率以上の時価総額の株式をグロース株、それ以下をバリュース株と定義したり、企業の一定期間の利益に対して、ある一定倍率以上の時価総額の株式をグロース株と言うなど、明確な基準を定める場合が殆どです。しかし、日本の場合、決まった基準がないのです。敢えて言えば、ファンドマネージャーが、この企業は将来、利益を大きく成長させる事が出来るだろうと考えれば、グロース株、この会社の株式は実態価値から比べて割安だと判断すれば、バリュース株と言う事になります。

一株と言う事になります。

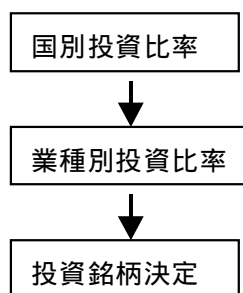
では、グロース株ファンドとバリュース株ファンドではどちらが有利なのでしょう。また、どちらのファンドが、リスクが高いのでしょうか。米国では、こういった調査が数多く行われていて、バリュース株ファンドの方が、グロース株ファンドよりも、長期間では、成績がよい事がわかっています。

日本では、グロース株ファンドの人気が高く、バリュース株ファンドの設定が少ない事や、日本株式が大きく下落したとは言え、バリュースといった観点から投資できるような株式が少ない事から、グロース株ファンドとバリュース株ファンドに、明確な運用成績の差が見られないのが現状です。ただ、成長企業の多くが中小企業となってしまう事から、グロース株ファンドには、中・小型株式、店頭公開企業の株式が数多く含まれる事が多く、リスクは高くなる事が多いようです。

ボトム・アップとトップ・ダウン

ポートフォリオの構築の方法としては、ボトム・アップとトップ・ダウンの二通りの手法があります。ボトム・アップとは国別投資比率や業種別投資比率等を全く考慮せずに、企業訪問を中心に企業の将来性、企業の価値を見極め投資していく手法。これに対し、トップ・ダウンとは、各国の経済状況などを考慮して国別投資比率を決め、その国の様々なマクロ要因を考慮して業種別投資比率を決め、その業種別組入比率の枠内で投資する企業を選択していく手法です。

トップ・ダウン型



ボトム・アップ型

